

読者文壇

天皇の食い物が氣になる失業者
電線に憲法の凧ひつがかり釜ヶ崎
値上げでも盛りが少ない飯屋かな
永田町バカ盛で安い食堂かな
行政は骨皮すじ右衛門の釜ヶ崎
投石はプロにも負けず名投手
青かんのおれの手を踏む西成署

M・T

冬薔薇血売る腕に対して合う
血を売って夕焼けに考い愛語録
刺すごとく血売りし人に寒の雨
虚無の眼に寒三日月の細々と
草摘む孤独の指を青に染め
ドヤの窓四角に春の陽が勾う
春という陽の真実によろめけり
罰明けて未来を誓う二月尽
見事咲きし冬薔薇妻の愛語欲し
法廷の裏側ひそと薔薇勾う

いざわさわ男

夜の公園

いぢわさわ男

暗い夜空の隅の三日月の下に
黒い人影が木立の中から浮き
だした

銀杏の葉が黄色く枯れ夜露の隅に
濡れた星空が
キラキラと光っている
つめたい
三日月のとがった下で
老いた土工が立っていた
砂石が
つめたく夜
夜露にぬれている

目に見えないなにかを
なにかを求め
幼き頃を思い出す

